



手
名
抄

~ 4
51
!



高所蔵

善右抄目錄上
連々善悪あり事

然る人々事
善右大将事

頼政平後惠撰事

只今を何の事

不^レ言^レ言^レ他^レ由^レ教訓事

秀風情似忠強祝法事

弁平れ山吹并かろつる事

貫之家事

周防内侍あり事

障海論文事

仲總平慣詞談事

こつとあつた福事

子載集平一首全悦事

千鳥鶴の毛衣とさう事

ますかの房乃事

用乃信水れ事

業平家のも事

りさるるの事

10
51
1

開明神事

中将恒内事

貫之躬恒勝方事

日合の中名字事

後頼基後心事

琳質基後とぬらる事

純書よ古新の事

猪丸大夫基事

衣撰の事

舟本臂句事

上句とらる事

和琴乃わらうの事

人丸基事

後頼方とらる事

三位入道基後事

腰句終の事

基後僻難事

女乃あらんの事

黒主神の事

志乃と升の事

積合すの事

舟詞槽撰事

無名抄

中村藏書

舟ハ歌の心とくゆらふと也後頼の髓也

之也とらる事

中々まうしていさうくあつた事

福とあつた事

乙海上月これの事

之とらる事

ふとあつた事

あつた事

らりあつた事

るた事

のさくしつと歌よりのちりー

津ぐさいあさるわさくれさくつる

きりくさむきさくむのさくつる

あーくさるわさくみわさくわさく

河とさくすてげーわり

隋海路通文

わつとちりよそ谷物一河海路と魚つる

とつと歌よ わさくちり

けりーさくちりあーさくちりー

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

わさくちりさくちりさくちりさくちり

知に先達ありしなりしはかへせむいふは
さなうらんきくもんは—
乃んあわくは難と—
ささめゆり—

秋と人

又あが—あそ小周備と—
甲よりお歌り—

お—お—お—お—お—お—お—お—

さああり—と—
わらんのかう—

つ—つ—つ—つ—つ—つ—つ—つ—

あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

お—お—お—お—お—お—お—お—

お—お—お—お—お—お—お—お—

あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

晴き—見合人

ふれのおいあ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

本之五十年九月廿九日

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.

開の書状

Handwritten text in a cursive script, continuing the document's content.

Handwritten text in a cursive script, continuing the document's content.

勢の大小一やまきよま

内防内侍家

又よさうのまのの我々のいふはしるはしるは
いふまをんをいかりうのいふいふのいふいふ

あまのからのお神

丹波園たにわののいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

みくらうのいふいふのいふいふのいふいふ

のいふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

あまの神にまわるといふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

開の神

金飯かねいの開の神にまわるといふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

いふいふのいふいふのいふいふのいふいふ

如琴のいふいふ

とまゝに……の才もあつてお水前^{いづこのぞん}の
御^ごをたつ……とめんと車^{くるま}……あひつら
奉^{ほう}後の……
うの……
……
……

あつたの……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

く義のせしむるがみかへり

皇天に神に祝事

皇天の神よ大道よりすまへ

皇天の神よ一かたのまはすまへ

皇天の神よ

皇天の神

又皇天の神よ

皇天の神よ

皇天の神よ

皇天の神よ

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

皇天の神

どおのらまのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ

あふあふのゆるりして業りのからくわ

み東三佐入道とれよとてもよのけ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ

新事月句

後惠物語の次よとて業りのからくわ

あふあふのゆるりして業りのからくわ
あふあふのゆるりして業りのからくわ

ひさしをてらふれしとてはしむら
やがてとちりりしはよりあつた
あまのまじりてまこと結つるくちり
とちりまはれしとてはしむら
我らにすれはるまの首にゆらりわらわら
—くらのひと下り

かいてまゝのらやうらうらう
福ね来の月のけりとのこころ
あへの霧はまはるくちり
そとちりすはれまのくちり
くちりのあまのくちり
よらあまのくちり

後惠之 顯補にまに

あまのくちり
とちりまはれしとてはしむら
このまじりてはしむら
かいてまゝのらやうらう
あまのまじりてまこと結つるくちり
とちりまはれしとてはしむら

昇人志純侍事

後惠之 和方乃所東の契じまびるしとてあ

